

親子で学ぶ！ エネルギー見学バスツアー —体験レポート—



当会では、エネルギーの現状と未来について理解を深め、親子で考えていただくことを目的に、エネルギー施設の見学バスツアーを開催しました。当日は、5組10名の親子の皆さんが普段なかなか訪れる機会がない発電所を見学。その後、エネルギー勉強会を実施しました。



仙台火力発電所・仙台太陽光発電所を見学

2024年8月、真夏の太陽が照り付ける中、エネルギー見学バスツアーがスタートしました。見学先は、特別名勝・松島の一部に立地する「東北電力仙台火力発電所・仙台太陽光発電所」です。小中学生の親子5組10名を乗せたバスは仙台駅東口を出発。美しい海が車窓に広がってきたころ、発電所に到着しました。案内してくださったのは、今井達夫所長と総務グループ専門役の我妻典夫さん。仙台火力発電所の特徴として、燃料を従来の石炭からCO₂排出量が少なく環境に優しいLNGに転換したこと、ガスタービンと蒸気タービンを組み合わせた「コンバインドサイクル発電」で、世界最高クラスの熱効率を実現しCO₂を約6割削減したことについてご説明いただきました。また併設する仙台太陽光発電所は、CO₂を排出しないで発電できる反面、発電量が天候等で左右される弱点があることを学習しました。太陽光を優先しながら火力の発電量を調整して、電気を安定供給している発電所の現状について理解を深めた親子は、その後、タービン設備や発電所の頭脳とされる「中央制御室」などの発電所内部を見学。初めて見る設備を興味深く見学する親子の姿が印象的でした。



大切なキーワード

「エネルギーミックス」を学ぶ

続いて、七ヶ浜町の海に臨む施設「アクアリーナ」に場所を移し、エネルギー勉強会を行いました。前半は「CN2050〜脱炭素ボードゲーム」を体験。気候変動問題をテーマに、ゲームを通じて楽しみながら脱炭素アクションを考えました。

後半の「エネルギー講話」では、当会後藤専務理事が日本のエネルギー事情について説明。火力発電に大きく依存している日本は、カーボンニュートラル実現に向けてCO₂排出量の削減に取り組まなければならないこと、燃料のほとんどを海外の輸入に頼っていることから、世界情勢によって供給が不安定になりかねないリスクなどについて、分かりやすく説明しました。後藤専務は「どの発電方法にもメリット、デメリットがあり、万能で完璧な発電方法は今のところありません。そのため、様々な発電方法をバランスよく組み合わせる『エネルギーミックス』が大切です」と解説。私たちの暮らしに欠かせない電気やエネルギーには、様々な課題があることを学習した参加者は、真剣な表情で耳を傾け、話に聞き入っていました。



自分ごととして

エネルギー問題を考える

その後、参加した親子10名は、後藤専務と意見交換を行いました。子どもたちは、今日感じたことを一人ずつ発表。「発電の仕組みや発電所の仕事がよく分かった。松島の景観を乱さないように、発電所の外観や太陽光パネルの色に気を遣っているところがいいと思った」「火力発電にしかできない大事な役割があることが分かった」「電気はあって当たり前ではないことが分かった」といった意見がありました。後藤専務からは「エネルギーの未来のために、『誰かが』ではなく、皆さん一人ひとりが『自分がやる』という気持ちを持ってほしい。若い皆さんの柔軟な発想と主体的な行動に期待しています！」と子どもたちにメッセージ。保護者からも「家庭に電気が届くまで多くのプロセスがあり、人の手がかかっていることを知った」「ゲームを通して、身近な生活の中にも節電や省エネのヒントがあることに気づいた」といった様々な感想が寄せられ、親子でエネルギーや地球環境問題を考える、充実したバスツアーとなりました。

参加した親子の声

小中学生

- CO₂は地球の温暖化進行に大きな影響があることが分かった。暮らしやすい地球であるために、行動を変えていきたい。
- 生活の中で電気が大きく関わっていることを知った。地球温暖化を進めないためにも、自分たちにできることがたくさんあると感じた。

保護者

- 発電所のスケールの大きさや、最新型の設備に圧倒されました。日常生活での電気の無駄遣いにも気づいたので、子どもと生活を見直します。
- 発電所の技術と工夫を知り、大変努力されていることを実感。一人の努力で環境を変えることは難しいので、みんなで協力しなければならないと思いました。

